平成20年3月
第16号

自治連だより

発行元　八千代市自治会連合会
代表者　中台　巍
編　集　八千代市自治会連合会
編集委員会

各地区で市政懇談会を開催

市長並びに市役所幹部を招いて以下要請いたしました

平成19年10月7日の村上地区を皮切りに、市内7地区で市政懇談会を実施しました。

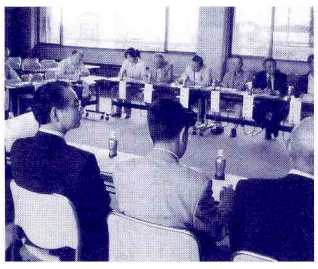
また、連合会役員会との市政懇談会も実施しました。

市長や市役所幹部を招き日頃の疑問や要望を直接伝えるため、各地区の懇談会では活発な話し合いで賑わいました。

以下、各地区で出した質問の概要と回答の一部です。

村上地区
平成19年10月7日(日)
ふれあいプラザ第3会議室

1. 小学校に関する件
①小学校通学区域の変更について
②学校の施設の老朽化に対する対策はどうなっているか
③耐震の問題はどうなっているか
2. 村上駅前の開発について
3. 交通事故防止対策について
4. 住居表示変更の件
5. 防災無線の設置の全体的な見直しをお願いしたい


◀村上地区

6. 神明公園内のホームレス対策の件
7. 選挙時の投票所新設の件
8. 障害者及び高齢者に対する福祉の充実を更に図る努力を願いたい
9. 八千代市の将来の開発計画をお聞きしたい。村上地区に図書館の建設をお願いしたい

（回答）現在113ヶ所に設置してあります。（聞こえる範囲は300mです）

聞きづらい所があれば市の総合防災課へ連絡頂ければ実態調査を致します。

フォレストピア自治会及びウェストピア自治会に聞こえる様設置する。

優季の街自治会については適当な設置場所が無いので現在さがしているところです。

（回答）現在、図書館の整備計画を検討中です。

村上地区への建設も要望として受けとめ今後検討してまいります。

◀阿蘇地区

阿蘇地区
平成19年10月21日(日)
米本南集会所

1. 下高野地区
①道路幅が狭く，通学路樹木で暗い
②排水問題
③側溝の蓋かけ
2. 保品南区
産廃残土不法投棄問題のその後
3. 米本団地
川向い側市民農園建設計画の現状
4. 米本南自治会
①道路の拡幅計画
②自治会内道路，公園入り口のバリアフリー化
5. 市政懇談会の在り方について

八千代台地区
平成19年10月27日(土)
八千代台自治会館

1. 愛宕公会堂の補修
2. 地域内6小中学校の体育館の耐震測定
3. 京成電鉄実籾寄りガード修復
4. 八千代台駅東口の改造
①建築物の市道不法使用の是正について

（回答）八千代台東南まちづくり協議会の要望を受けて、市道（八千代台南3号線）と隣接する建築物敷地の境界査定を実施し、境界を確定することができた。そしてこの査定において建築物の一部が市道に越境していることが判明したので、市から平成19年4月24日付けで「建築物の一部撤去・改修」を要請した。建築物の所有者も改修の意向を示しているので、協議してこの問題の早期解決に努力したい。

◀八千代台地区

②八千代台西から南へのクランク踏切の改造について
③八千代台駅東口広場の改造について

睦地区
平成19年11月3日(土)
ふれあいむつみ

1. 国道16号島田トンネルの改良（通学路になっていても，見通しが悪く改善してほしい）
2. 農免道路に歩道を作る計画があるのか（農業会館から木下街道までの間）通学する人が危ない
3. 島田台から睦小学校までの道路整備（通学路に指定されているようだが，道路が凸凹であり歩道も無くて危険）
4. 睦北保育園の整備（廊下の補修，使わない遊具の撤去）
5. コミュニティ施設を核として備える集会場（ふれあいむつみ建て替えについて）
6. 八千代市の少子化対策の取り組みについて
7. ゴミの不法投棄について（パトロールなどして摘発をしているのか）
8. 睦小学校から中学校までの道路に歩道の設置（現在，変則的に歩道がついているが，道路が狭い。両側に歩道を作ってほしい）
9. 国道16号線島田台交差点の改良（歩道橋等）の進展状況は，どうなっているのか
10. 東葉高速鉄道の債務超過が続いた場合，八千代市はどういう対策をとっていくのか

◀睦地区

勝田台地区
平成19年11月10日(土)
勝田台会館

1. 勝田台地区における生活環境の改善
駅前周辺における不法駐輪，客引き，ゴミの不法投棄の取り締まり強化
2. 木造住宅以外の住宅に対する耐震診断費用の補助等
①木造住宅の耐震診断に対する補助金制度の，老朽マンション及びテラスハウスへの拡大
②老朽マンションにおけるバリアフリー関連相談窓口の早期設置
3. 条例の改正
①美化3条例を勝田台地区に適用するための市条例の改正
（回答）美化の3条例の適用範囲は市全域となっているので条例改正は必要ない。
②住居表示に関する市条例を勝田台地区に適用するための市条例の改正
③あき地の雑草除去に関する条例をあき屋に適用できるよう改正
4. 側溝の清掃
重量が重い蓋を設置した側溝の土砂・塵埃の除去
5. 花見川の水質改善
現在実施している花見川の水質調査の継続と，エアレーション設備の設置等による水質改善の促進
6. 防災訓練の内容改善
勝田台地区に適合した防災訓練の実施

◀勝田台地区

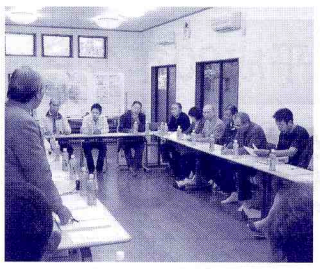
高津・緑が丘地区
平成19年11月10日(土)
緑が丘自治連合会館

1. 市政
①個人情報保護法と行政のあり方
②東葉高速鉄道の経営状況と市民負担・運賃見通し
③八千代医療センターの稼動状況と完全診療時期
2. 道路
①大師霊園から京成バラ園までの道路の進捗状況と大和田西小学校への道路整備（道路が狭隘）
（回答）用地買収事務の難航により平成16年より事業が停滞していますが、平成18年度末に平成22年度まで認可を延伸する手続きをおこない、平成22年度末の完成を目指しています。
通学路について、道路が狭小であることは認識していますが、現在、拡幅計画がありませんので、現時点では白線等による対応でご理解ください。
②新規道路建設等の情報の早期提供
③八千代緑が丘イオン南側道路交差点（左折と直進を一緒にしてほしい）
④高津アリスこどもクリニック前道路交差点（右折ラインの設置要望）
3. 環境

5/18

20年度自治会連合会総会のお知らせ

平成20年度の自治会連合会の総会は5月18日（日）に行う予定です。
詳しくは後日、自治会長宛通知いたします。



◀高津・緑が丘地区

①公園，緑地帯の草刈り等の日程情報早期通知（ボランティアと作業のダブり）
②自衛隊習志野演習地隣接住戸の騒音・振動対策要望

4．安全
①集合住宅の耐震診断，耐震改修に関する補助制度の整備要望

5．その他
①立候補者ポスターの不法乱立の措置と整備
（回答）選挙管理委員会から明確に答えがでています。
国、地方公共団体等が所有若しくは管理する場所には掲示することができない。また、違法なポスターの掲示については地元警察等と連絡を取りながら適宜、警告・撤去命令等の対応をします。
今回執行された参議院選挙では、掲示責任者に撤去するよう通知すると共に、県と市の道路管理者及び所轄警察署等で選挙の公示前に合同撤去をしました。

大和田地区
平成19年11月11日(日)
大和田新田下区公会堂

1．八千代市の市民への防災対策
①八千代市市民への防災対策
②自主防災会は平成19年度で92組織，市は補助金を増やし，組織の拡充をする考えは有りますか。
③自主防災組織の機材の充実は考えていますか。

2．八千代市の市民へのゴミ対策
①ごみ集積所へのポイ捨てゴミを失くす対策
②右記①に関連し子供たちへの教育は
③タバコのポイ捨てを失くす対策は

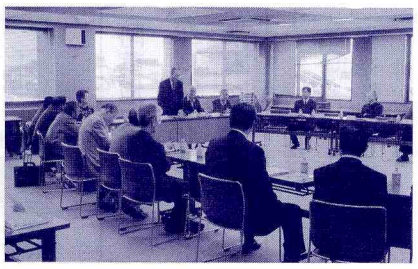
3．八千代市民への情報の提供
①パソコンを利用しての情報提供は市民がそのページを見に行く必要がある
②パソコンを利用しての情報提供は必要だが，パソコンを使わない方への配慮は
（回答）選挙管理委員会から明確に答えがでています。
国、地方公共団体等が所有若しくは管理する場所には掲示することができない。また、違法なポスターの掲示については地元警察等と連絡を取りながら適宜、警告・撤去命令等の対応をします。
今回執行された参議院選挙では、掲示責任者に撤去するよう通知すると共に、県と市の道路管理者及び所轄警察署等で選挙の公示前に合同撤去をしました。
③地域に密着した情報はその地域に情報を流す

4．幹線道路の都市計画の進捗状況
①ゆりのき台～大和田への道路
（回答）ゆりのき台から大和田への道路は「都市計画道路3・3・7号大和田駅前萱田線」として昭和38年に計画された延長3千750mの道路で、現在「ゆりのき台」の区画整理により1千800mが整備されておりますが、ゆりのき台から大和田までの区間につきましては事業化の目途が立っておりません。今後、「街路整備プログラム」を策定し、事業化の時期を検討したいと考えております。
②国道296号バイパス
（回答）ご質問のバイパスは「都市計画道路3・4・1号新木戸上高野原線」のことと思われますが、この道路は昭和38年に計画され延長7300mの道路で4176mが整備されております。
現在、新木戸地区において「西八千代工区」として437m、「緑が丘工区」として732mをそれぞれ事業化し、平成21年度の完成を目指して整備を進めています。
③新木戸交差点の改良

◀大和田地区

役員会
平成19年11月25日(日)
八千代市役所別館

1．明るく安全で住み良いまちづくり
防災・市の財政・病院・独居老人対策などを中心に話し合いました。



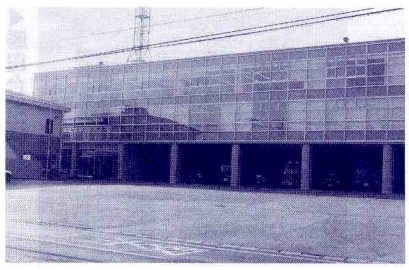
◀役員会

市立小中学校の耐震診断が終わりました

災害時の避難場所にもなっている市立小中学校の校舎・屋内運動場の耐震診断が全て終了しました。診断の結果耐震補強が必要な建物につきましては、平成20年度より耐震性の低いところから、また、避難場所である屋内運動場を優先し、順次耐震補強工事を行っていきます。
（教育委員会）

―市民の安全・安心を支える防災拠点―
八千代市消防本部及び中央消防署新庁舎が完成

八千代市では、平成7年の兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）以後、公共施設の安全点検を実施してきました。平成13年度には、昭和47年6月に建設された消防本部・中央消防署庁舎の耐震診断が行われました。
その結果、「建物強度の劣化」という診断により大規模改修、または建て替えが必要との診断が出されたので、現在の耐震基準を満たす消防庁舎の建設が計画されました。
消防庁舎の建設は、平成16年度から平成19年度までの4か年継続して進められ、平成19年11月末にすべての施設が完成いたしました。
新庁舎の概要は、免震構造・鉄骨3階建て、延べ床面積約4，300平方メートルです。また、市民訓練施設を中心とした別棟4棟は、延べ床面積約570平方メートルです。
新庁舎1階には、大和田新田地域を中心に管轄している中央消防署が、2階には、119番通報の受理と出動指令など業務を行う指令課（指令センター）が、3階には、消防本部の消防総務課、予防課、警防課が配置されております。
中央消防署に配備されている車両は、消防ポンプ車2台、救助工作車1台、はしご車1台、水槽車1台、救急車2台（内予備車1台）などとなっております。
それでは、新庁舎の特性について紹介します。新庁舎は、大規模災害時に庁舎全体が広域災害対応施設となるように設計されています。このため、大規模地震が発生した場合でも、地震の揺れを3分の1から10分の1程度に低減する、免震装置（積層ゴム32基）を設置しています。
また、地震などの災害時にライフラインの断線に備え、庁舎屋上には、最低7日間稼働可能な自家用発電機が設置されています。この発電機により、緊急時にも庁舎機能を維持することが可能となっています。
そして、来庁する人々へ特に体が不自由な人や高齢者が利用しやすいように、段差のない出入り口やスロープ・自動ドアなどを設置した「ハートビル法」対応庁舎となっています。更に庁舎内2か所（1階・3階）に24時間対応の「オストメイト（人工肛門保有者・人工膀胱保有者）対応トイレ」を設置いたしました。
この庁舎建設に併せまして、今後の消防・救急需要に対応するための「高機能消防指令センター」を整備いたしました。この高機能消防指令センターには、デジタル指令装置、地図等検索装置、発信地表示装置、高所監視カメラ、大型プロジェクターなどが設置されています。119番通報が入るとコンピュータシステムにより、瞬時に災害現場の位置や状況を確認し、音声合成装置による予告指令、本指令が出されます。また、GPS（衛星利用測位システム）により、消防車、救急車の位置情報を把握し、災害現場に最も近いところにいる車両から順次、出動隊を自動編成します。これらのシステムを活用し、通報受信から災害現場到着までの時間短縮を図ります。
平成19年度には、市民訓練施設、救助訓練棟、ドクターヘリ臨時ヘリポートを建設しました。この市民訓練施設は、消火訓練をはじめ煙中避難訓練や高所避難体験（救助袋・避難ハッチ）など市民の皆様が使用方法などについて、学習できるようになっています。
（1）消火訓練　疑似火災モニター装置を使用する消火体験
（2）煙中避難訓練　疑似火災煙装置を使用し、煙が充満している室内からの避難体験
（3）高所避難体験　救助訓練棟主塔の3階に設置してある救助袋（斜行式）や避難ハッチ（避難はしご）を使用する避難体験
庁舎の見学や訓練施設での体験は、消防総務課で受け付けています。なるべくグループで申し込み願います。受け付けは、土曜・日曜日、祝日を除いて午前8時30分から午後5時までです。（お問い合わせは、消防総務課☎459－7802へ）



◀消防署

編集後記

ここ数年、日本の各地は大地震の被害を受けました。関東、東海、関西でも大地震の予想がなされています。当然、日本国中で大規模な訓練が展開されるようになりました。
八千代市でも年々防災訓練が盛んとなりました。また、市街化の展開と共に全市的に取り組まれ始めた防犯運動も年々充実されています。昨年の市長との懇談会も、こうしたテーマが中心となりました。更に、新たに建設された消防署のような施設は、こうした防犯、防災運動を促進することは間違いないでしょう。
問題は、まだまだこの市街地に必要な施設の選択をどう進めていくかにあるでしょう。財政は当分苦しい状況下にあるでしょうから財源の配分が重要な課題です。民意を生かした判断が望まれます。
ここで、八千代市自治会連合会がそれらの施設の選択をする中心となるよう活動し続けることに期待したいと思います。勿論、地域別のエゴは許されないことであります。そんな事態は私達の知恵が解決すると信じております。
『編集委員　丸山』